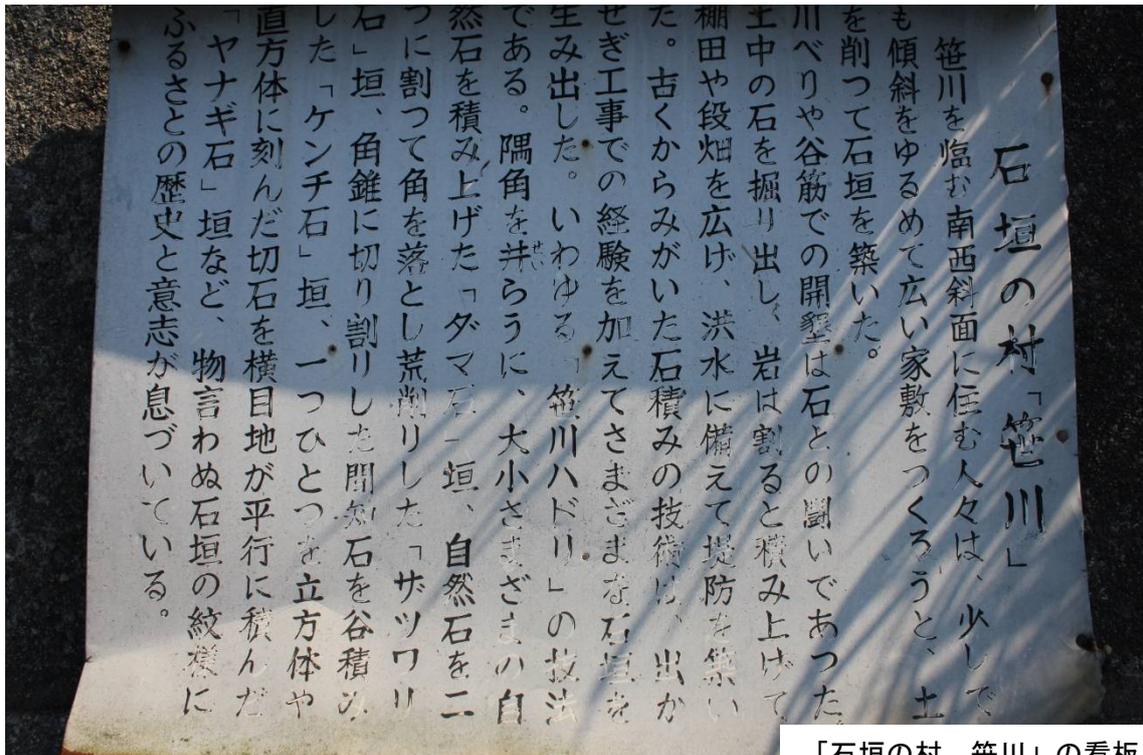


# 「石垣の村 笹川」

笹川自治振興会



「石垣の村 笹川」の看板



1



深松さんの北側石垣で、<sup>ざつわり</sup>雑割<sup>(1)</sup>の高石垣である。

目地にセメントを使っているので、積み方もいいので、乱れは少ない。

笠<sup>(2)</sup>に約3尺長の細工石をのせるため、<sup>てんばいし</sup>天端石<sup>(3)</sup>で平面を整えている。

2



<sup>てんばいし</sup>天端石は大きさをほぼ一定にしているが、これはケンチ<sup>(4)</sup>のように、積み上げられる前につくられたものではない。運び込まれた<sup>のづらいし</sup>野面石<sup>(5)</sup>の端を打ち割って、組み合わせて目地にセメントをつめたものである。

3



長井清孝氏の石垣である。<sup>ざつわり</sup>雑割<sup>おと</sup>を落とし<sup>づみ</sup>積<sup>(6)</sup>にするため一部には端を打抜き切込ハギ<sup>(7)</sup>のような形を見せる、しっかりとした石垣である。目地には近年セメントを詰めた。

<sup>てんばいし</sup>天端石もそれなりに納まっているが、大、小、細をよく組み合わせている。

4



深松さんの南角の石積である。右の坂は堀内、長井氏宅への露地である道となるため、積み上げも丁寧で、笠石を置く。

角を井ろう<sup>せい</sup>⑧に組んであるが、五角形の天端石<sup>てんぱいし</sup>は雑然と大小かまわず、形として整えられているが、目地のセメントは乱れ、積みのありあわせをごまかす感じ。

5



竹内正之宅の南寄りの石垣である。多くの部分にはケンチを使い、石組は落し積みで、石垣を悠然とまとめである。

笠も四角に細く長さ幅などをきめて計画的である。

そのあと内部の盛土の土留めに川石を列べたのは、まとまりなしのつけたりの感じである。

6



同じ家のもので、南角の積み上げとまとめである。

積み方は規格通りである。

しかし角の天端<sup>てんぱ</sup>と立石でミカゲの細工物は調和を欠いていて、どこかで不要となったものをそこに立てたり据えたりしている別物の感じ。

7



又右エ門の北のすみの石積みである。

もとの石垣を積みかえて目地にセメントを使ったざつわり雑割と野面の石垣である。

角石には規定の大型の石をきんぎ算木様<sup>(9)</sup>に積み上げて押えとしているのは、一応良心的。

8



つきやま築山クラブの石垣である。大正の

初期に積まれたもので、野面、のづら雑割ざつわりなど雑多な石を自由に積み上げて行ったもので、中には、崖をけずった時に出た大石はそのままに、まわりを囲むように積み上げたところが面白い。笹川の石工の自由創造的  
石組みが面白い。

9



ただ部分的にふくらんでいるところがあるのを、目地のセメントでつないで、それ以上のふくらみを止めている。高さ約200cmをこえる

ざつわ雑割りでは見事。

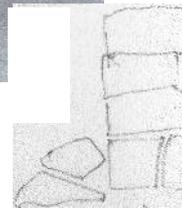


10

与右エ門の石垣の北部側の方、昔の登り口と石垣の端が新しく積みあげた中に残っている。

下から四段、切り石を使って角であったことを残している。

あとは雑割り、間にあわせの積みあげである。



左側は新しく加えて積まれた雑割り旧の登り口の角であろう。

角に続く上手はケンチに近い石を組む。



11

同じ場所の一部



12

甚四郎さんの石垣車庫。切り石を積み上げてリヤカーなどを入れている。

奥の方は雑割りが使われている。この上に納屋をたてているので、これが基礎にもなっている。壁面はなし。セメントが貴重な時代には、自分の技術と労働で切り出して積みあげる石積みは金を出さなくても良かった。角はスミを取った丁寧な張り出しである。

13



甚九郎の石垣と石垣の車庫。

おじいちゃんが石屋さんだったのでケンチの見事な石積となって、その壁の中に車庫がある。

車庫のへりは長尺の切石を使ってあるが、内部は薄いセメントで作ってあるので、天井がぬけかかったので支えを入れている。

14



甚九郎の石垣の南方部と石段、はたんのない積み方で手なれのような気がする。

ケンチ石は整然と整えられ、谷落しの狂いもなく高石垣を組み上げている。

15



孫右エ門の前の宮への道の石積み。

上の天端<sup>てんぽ</sup>は有りあわせの加工である。

折谷隆一家の石垣は甚九郎のゴイチャンの石垣だといわれる。ケンチ石を主として、足りないの<sup>ざつわり</sup>を雑割を整えて積み上げてあるから途中で

不ぞろいが見られる。上の方も下の方も良いが、この部分は宮と孫右エ門の境目だったのか、積石もケンチの規格性がなく、天端<sup>てんぽ</sup>には夫婦石が使われるが浮いている。

16



宮の石垣の北側部分、コリ石を使っているが杉の根の力で裂け目が筋となっている。土圧の土留や木の根押えが石垣の難しい所だ。

昭和3年（1928）の作品。

松の根が入り込んで、たてに割れ目が入っている。

右角の上部より土台まで。

左の上二段で杉の根が入り込んでいる。

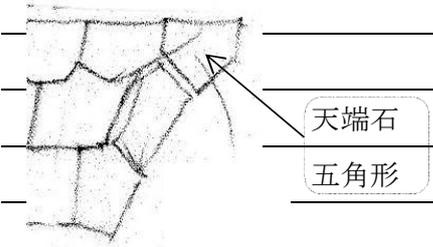
17



宮の階段の南側の部分。角はセイローに積んでコリ石を使っている。

石は規格通りのケンチ、天端も堂々としたバランスのよい五角形の割り口を見せる。

笹川の石垣の典型の一つである。



18



同前

19



宮の石垣、南の方に寄ったところ。  
見事にまとまっている。

20



土木請負業で羽振りのよい時代のも  
の。弥三郎の石垣である。  
きり立ったような崖を切り土にして  
屋敷を造成したもので土圧を押える  
ため、コリ石の抑揚の見事な石垣で  
ある。上手（奥）のあたりは旧の石  
垣、下手（手前）は東用水改修のた  
め積み直しをされ、セメントを多用  
したレンガ積みとなって味気なく  
なった。大小の調和と自由な組み合  
わせがなくなった。

21



弥三郎の上手玄関への登り坂の石垣  
大小を整えて、角は長短の組み合わ  
せ、上の圧を下の半分で受ける典型  
的な石垣を見ることができる。  
石段はセメントに変わっている。

22



折谷一族の宗家と呼ばれる「六郎兵衛」の金屋谷側の石垣である。自然石で、しかも大玉の角を端つただけで組み合わせて築いている。

奥は玉石積み（野面）<sup>のづら</sup>大きい石は径3尺を超える。

高さも見事であるし、築いた技も驚きに値する。

23



上の家への登りの坂の石垣であるが左手（写真中央部）は新しい雑割<sup>ざつわり</sup>の乱積<sup>(10)</sup>でセメントを使った雑な石積である。次はその続きで、良い石垣は右の方の石垣である。

24



大石積に続く登り階段の石積で雑割<sup>ざつわり</sup>を積み上げて目地をセメントで埋めてあるが上流側より小さい。

風格が違う。

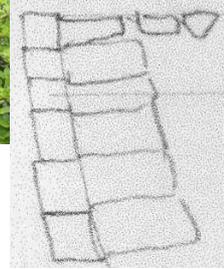
25



寺の石垣 南側

のづら  
野面の端を取って組み合わせた見事な石垣である。

ここは上の方からくり庫裏へ入る道があったようで、その石積が残っている。



旧の登り口=門の跡だろう。

天端は抑のコリ石を使っている

長さ、幅、高さも大ぶりである

26



27



南側納屋の下の石垣である。よく組み合わされている。

【正覚寺の石垣】



【正覚寺の石垣】



28



寺の下のケヤキの下の石垣。切込ハギ、小石だが丁寧な積み方になっている。これは大寺の石垣が積まれた時に施工されたものと考えてよからう。

但し左端は新しい石組みである。

29



中央町内会のニヨムサの石蔵。大玉ではないが方形及び長方形のкори石を組み上げ、目地にコンクリートを使っている。大正12年に建築されたそうだが、今は雑品しか入れてない。

正面＝南西向きである。

30



右は徳佐エ門さの高石垣である。  
ぎつわり  
雑割での高さでは、やはり土建で成功した家の石垣だけはある。

31



(ニヨムサの石蔵)

落石を入れて十段組立て、その上に屋根石をのせている。

南向きに高窓を作っている。

32



同上

33



宮平町内会、長井宝隆氏宅の石垣灰納屋<sup>(11)</sup>

34



竹内俊一家石垣。布石積<sup>(12)</sup>（細長い帯状の仕上げ石）を使っているが、細部まで加工なし。新しい石積みである。

35

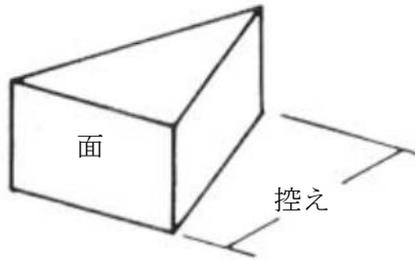


竹内正幸家の前口の石垣である。ケンチを基準と規格通りに作り出しそれを落し積みで築き上げているが裏ぐり<sup>(13)</sup>が敷込められないので部分的に土圧がかかり凹凸が目立つ。  
てんぼ天端も規格、組石も見事、角のまともも整然と安定性がある。

## 《用語について》

### (1) 雑割石（ざつわりいし）

面が正方形・長方形のもの。控えの2面がはつられている（二方落とし）。

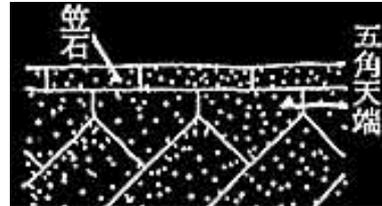


### (2) 笠石（かさいし）

石や煉瓦などの塀や手すりの上にかぶせ、壁体の頂上を保護する石。

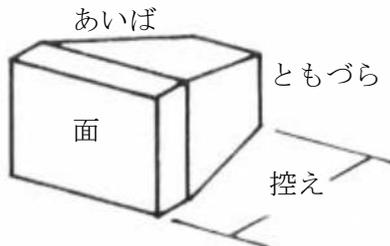
### (3) 天端石（てんばいし）

石積みで擁壁上部の平らな面に置く石。



### (4) 間知石（けんちいし）

四角すい体の日本独特の石材。控えの4面がはつられている（四方落とし）。

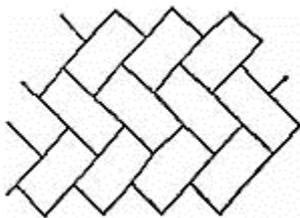


### (5) 野面石（のづらいし）

自然のままの石。玉石もこの種類に含まれる。

### (6) 落とし積み

石垣の積み方の一。長方形の石を隣の石に寄りかかるように斜めに置き並べる積み方。また、その石垣。



### (7) 切込ハギ

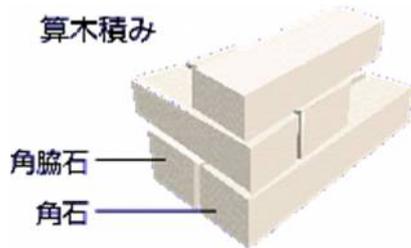
石材を加工し、整形し、目地を揃えながら積んでいく積み方。

(8) 井楼組 (せいろうぐみ)

材木を井桁(いげた)状に積み重ね、隅に切り込みを入れて、各材を互いに組み合わせた建築構造。校倉(あぜくら)・板倉もこの一種。

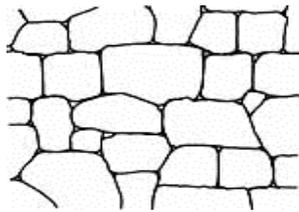
(9) 算木積み (さんぎづみ)

石垣の出角(ですみ)を積む石積み法の一。直方体に加工した石を用い、石の長辺を石垣の角の両面に交互に出すように積む。



(10) 乱積み (らんづみ)

形や大きさのふぞろいな石を不規則に積んだ石積み。

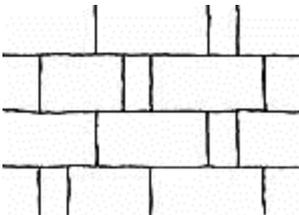


(11) 灰納屋 (はいなや)

<sup>わらばい</sup>藁灰の収納施設で、かつては農家に欠かせなかった。

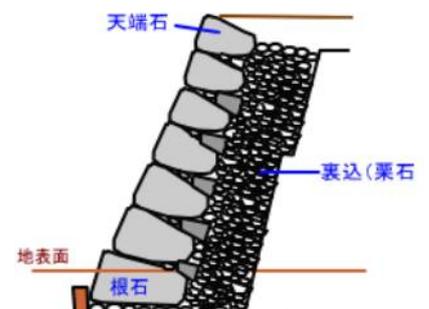
(12) 布積み (ぬのづみ)

石(ブロック)の辺を水平にして積み、目地が水平方向に通る積み方。



(13) 裏栗石 (うらぐりいし)

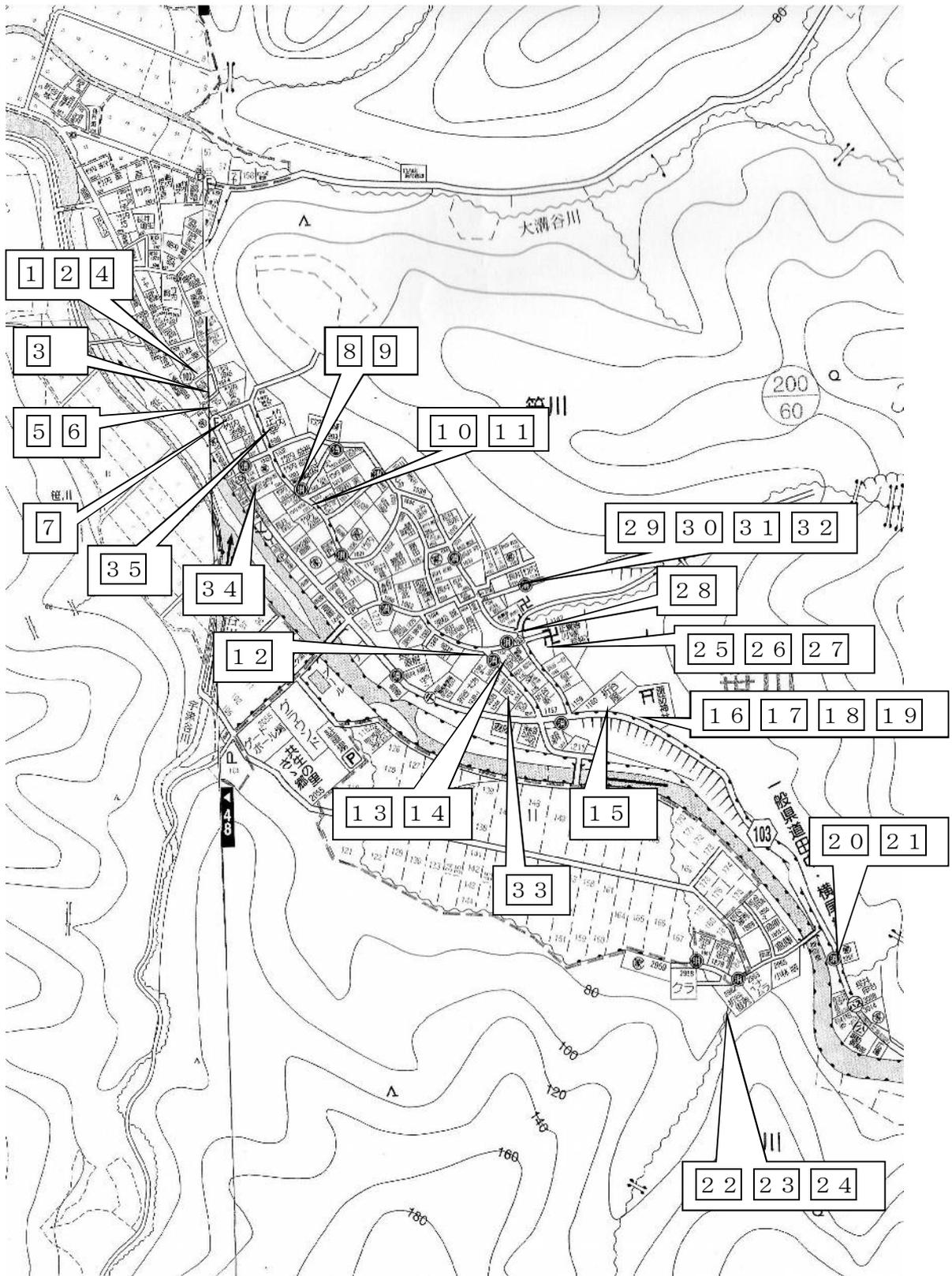
岸壁や擁壁の安定を高めるために、背面に入れる割栗石(直径 15 センチメートル前後の大きさの石)。



## 《資料中の家について》

- 1) ほか 「深松さん」＝深松義人。家は取り壊し済で、蔵のみが残る。
- 3) 「長井清孝」(亡)〈屋号：清左エ門〉 現：長井大岳〔現住〕
- 5) 6) 「竹内正之」〈屋号：伊左エ門〉〔現住〕
- 7) 「又右エ門」＝竹内澄男。現在空家。
- 8) 9) 「築山クラブ」公民館第二分館。築山町内会(2部)の集会場。
- 10) 11) 「与右エ門」＝竹内英和〔現住〕
- 12) 「甚四郎」＝竹内伊一。現在、家をコケシユさんが購入、居住。
- 13) 14) 「甚九郎」＝竹内和磨〔現住〕
- 15) 16) 「孫右エ門」＝折谷隆志。「折谷隆一」は亡父。〔現住〕
- 16) ほか 「宮」＝諏訪神社
- 20) 21) 「弥三郎」＝小林国雄。家は取り壊し済。
- 22) ほか 「六郎兵衛」＝折谷 要。家は取り壊し済。
- 25) ほか 「寺」＝正覚寺(大寺)
- 28) 「寺」＝林泉寺(小寺)
- 29) ほか 「ニヨムサ」＝長井ハル(亡)。家は取り壊し済。
- 30) 「徳佐エ門さ」＝竹内正一。空家。お盆に帰省してくる。
- 33) 「長井宝隆」〈屋号：徳平〉〔現住〕
- 34) 「竹内俊一」(亡) 現：竹内俊之〔現住〕
- 35) 「竹内正幸」〈屋号：新左エ門〉〔現住〕

# 《位置図》



## 「笹川の石垣」

### 本 文

竹内俊一「笹川の石垣」記録写真 平成9年11月13日作成  
平成26年5月10日修正（修正者：竹内 卓）

### 写 真

平成26年5月3日撮影（撮影者：竹内 卓）

### 解説および位置図

平成26年5月10日作成（竹内 卓）